

総社ゆかりの作家展

Mitsutani
Kunishirou

満谷国四郎

総社市門田に生まれ、明治・大正・昭和の3時代にわたり活躍し、日本の洋画界をけん引した洋画家の満谷国四郎の作品を展示します。

10/23_金 - 12/13_日

9:00 ~ 17:00

[月曜日は休館(11/23は開館)。入館は16:30まで]

入場無料

主催 総社市 総社市教育委員会
公益財団法人 総社市文化振興財団



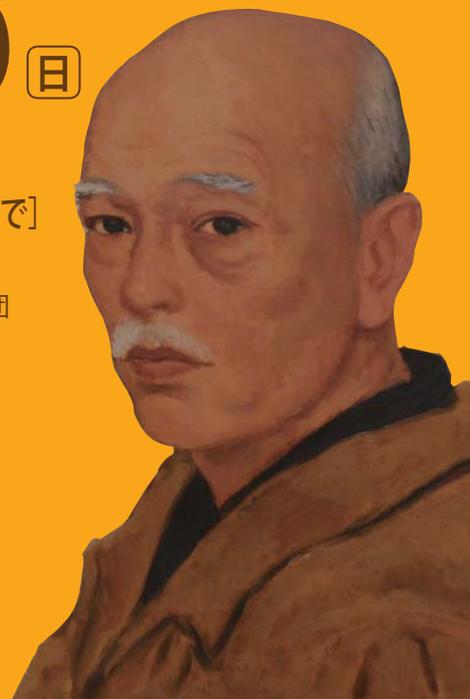
総社吉備路文化館

備中国分寺の北側駐車場から東方向に徒歩で約10分
岡山県総社市上林1252 ☎0866-93-2219

館名 文化勲章受章者 高木聖鶴氏 揮毫

[上] プルターニュの風景 油彩 1913年

[右] 自画像 油彩 1930年

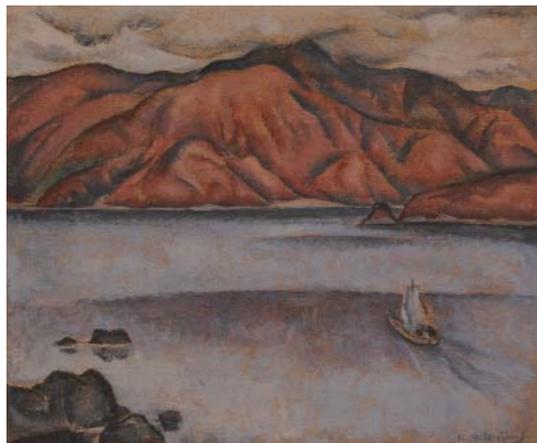


【満谷国四郎】 1874年〔明治7〕11月10日、総社市門田に生まれ、幼いころに親戚で岡山洋画の草分け的存在の堀和平の画技に感銘を受けました。浅尾小学校（現総社中央小学校）時代には洋画家で代用教員だった吉富朝次郎に教えを受け、岡山県尋常中学校（現岡山朝日高校）では画学教師に画才を認められました。同中学校を中退し17歳で上京。画業に励み、22歳から24歳のころ宮内省と外務省に作品が買い上げられ、名声を得ました。26歳のとき渡米し、その翌年にはフランスやイタリアなどを歴遊。37歳のとき再び渡欧し、約2年かけフランスやスペインなどを巡り、デッサンを学ぶとともに、ルノワールやセザンヌなどの影響を強く受けて帰国しました。これを境に写実的であった過去の殻を脱ぎ捨て、作風は大きく変化し、画面構成も次第に単純化。さらに4度にわたる中国旅行を経て円熟期を迎え、独自のスタイルを築き上げるに至りました。1936年〔昭和11〕7月12日、61歳で没。

本展示では、総社市と総社市文化振興財団が所蔵している作品約40点を展示。その大半は、2回目の渡欧から帰国した後、画風に苦悩し、それを乗り越えようと努力した時期にあたるものです。



少女 油彩 1906 (明治39)年



山海風景 油彩 1915 (大正4)年



源泉のエチュード 油彩 1918 (大正7)年

総社吉備路文化館

◆アクセス

総社吉備路文化館へは、備中国分寺北側の駐車場をご利用いただき、その後、徒歩でお越しください。

駐車場からは、徒歩で約10分です。

備中国分寺北側の駐車場までは、

◎JR伯備線「総社駅」から車で約15分

◎岡山自動車道の岡山総社ICから車で約15分

◎山陽自動車道の倉敷ICから車で約15分

また、備中国分寺の南側にある吉備路もてなしの館そばの駐車場からは、徒歩で約15分です。

◆問い合わせ

☎・ファクシミリ 0866-93-2219

総社吉備路文化館

検索

